

開成の杜

第120号 ●2022年12月16日 ●郡山女子大学大学院 ●郡山女子大学 ●郡山女子大学短期大学部 ●郡山女子大学附属高等学校 ●郡山女子大学附属幼稚園

●発行所／学校法人郡山開成学園 〒963-8503 郡山市開成3丁目25番2号 ☎024(932)4848(代) <https://www.koriyama-kgc.ac.jp> ●発行人／学園長 関口 修



(撮影 山口郁生)

第76回もみじ会開場セレモニー

小春日和のなかで



理事長・学園長
関口 修

時の流れは速いもので、間もなく新しい歳を迎えます。初冬の陽だまりのなかで時間と空間を巻き戻して見たくなるのは老のなせる感慨なのでしょう。彼是と思ひ浮かぶ忘れがたい事柄を反芻するのも、来る歳への備えなのかもと思います。

コロナ感染症による日常が変化してから三年余りが過ぎようとしています。三年前の早春、横浜港に入港した豪華客船の集団感染で知らされた正体不明な病は憶測による不安を増大させました。

卒業式を直前に控えた土曜日の午後、感染者や濃厚接触者の隔離が知らされ、卒業式の延期決定や報道関係者向けの記者会見を行いました。申し訳ない思い出です。卒業式が出来なかつた皆さんからは失望の声が沢山寄せられました。これは責任者として謝罪を続けなければなりません。

今年の夏は殊の外、暑い夏でしたが、学内の各施設の補修工事を行いました。それは、3月16日の大地震で被害を受けた個所ばかりではなく、次に大きな地震が起きて安全が確保されることを目的としたものでした。毎年のことですが、梅雨時には何処かで豪雨災害が発生しています。災害によって多くの大切

な命が失われることは痛ましく、防がなければなりません。安全安心は学び舎の基礎、学校教育の基本です。

東日本大震災に起因した原子力発電所の事故処理と被災者への対応は忘れられているようにです。自然災害が多い国に住む私たちは、自然を恐れながら自然との共生を図らなければなりません。

学園の大切な行事「もみじ会」は三年間の長きにわたる、豪雨水害やコロナ感染症の被害を受け、中止を余儀なくされましたが、今年は漸く開催されました。学園全ての皆さんが生き生きと学生・生徒・園児本来の姿を回復したことは大きな喜びでした。さらに「もみじ会」に引き続き、長らく懸案となっていた「生活文化博物館」が開館の運びとなりましたことも学園の歴史に残る出来事です。

今、私が最も懸念し、皆さんに熟慮してもらいたいことは、デジタル化が進み、パソコンやスマートフォンを多用する利便さです。デジタルで文章を書いていると筆記文字を忘れていたり、文体に纏まりがなくなったりすることは無いでしょうか。一字一文を、心を込めて、相手を感じる文体を考えて手紙を記すことや、考えを適切に伝える表現は人の心を動かします。

SNSとても同様ですし、責任ある使い方が求められています。

便利の中に危険が潜み、不便の中にも宝があるようです。

家政学部生が卒業研究発表もみじ会に併せ説明 中間発表も

郡山女子大学家政学部の卒業研究発表会は、第76回もみじ会(10月27・28日)に併せて開かれ、食物栄養学科と生活科学科福祉コースの学生がポスター掲示やスライドを使い研究成果を披露した。また、生活科学科の生活総合、建築デザイン両コースでは中間発表を繰り広げた。研究テーマと発表者は次の通り。

■卒業研究発表

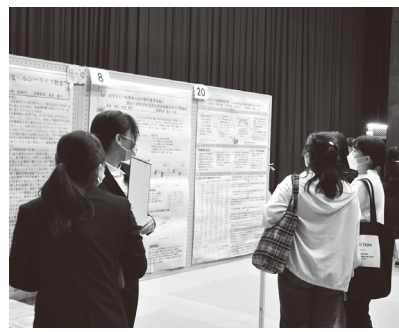
- 【食物栄養学科】
 ▽女子大生における骨密度の維持・上昇に寄与する要因 本城実紅／鳴原奈帆／吉岡珠梨
 ▽福島県の伝統的汁物の減塩に関するNa／Kからの検討(2) 深谷奈央／及川風
 ▽古殿町のミニトマトを使用した6次化商品開発(3) 鈴木莉央／大野咲希
 ▽郡山市の子どもの食生活に関する実態調査(9) 村上明日香
 ▽学童期における栄養教育の実践―アクティブ・ラーニングの視点を取り



令和元年度卒業生が参加した卒業の集い

令和元年度卒業生「卒業の集い」開催

新型コロナウイルス禍の影響で卒業式実施を見送った令和元年度(2019年度)の卒業生に参加を呼び掛けた「卒業の集い」が10月22日、郡山ビュー



研究成果をポスターにまとめ説明する食物栄養学科の学生

- 入れた日本とカンボジアでの栄養教育ツールの考案 小島梨奈／久岐愛奈
 ▽鉄摂取意識向上のための教育ツール「鉄カルテットSTUDENT版」の作成と活用 齊藤千聖／面川沙羅／黒川安未莉
 ▽女子高校生卓球部における健康増進に向けた鉄摂取向上の取り組み 千葉優奈／齋藤のぞみ／鈴木杏奈
 ▽幼児をもつ保護者の幼少期の食育体験と現在の食生活状況及び食育実践状況との関連性 東條真紀／井浦陽菜
 ▽デジタル化に対応した食育の推進

- ▽ホームページを活用した情報発信の試み 馬場蒼／鈴木萌々香
 ▽菊地祐佳／泉田真由
 ▽乳酸菌と酢酸菌の同時発酵の検討 芋田梢
 ▽同じ土地に生育している植物の放射線核種の吸収特性 星花澄
 ▽猪苗代湖・裏磐梯湖沿地域におけるウチダザリガニの生育域と行動調査 田中有里
 ▽鏡石町との連携事業「減塩ヘルシーライフ教室」の意義について 佐藤菜月／山岸明日香／吉田知世
 ▽大野絵梨子
 ▽福島県内の介護保険施設における糖尿病食に関する調査 小室亜海／泉田悠花／丸山真季／小野胡桃
 ▽葛尾村での取り組み報告「女子大農場でのエコマ栽培並びに商品開発」 志賀遥／佐藤りりか
 鈴木日菜／柳田文香
 ▽葛尾村の特産品を活用した商品開発「アイスの商品開発について」 池田里歩／岡崎亜美
 遠藤真悠／下堂蘭盛桜
 ▽妊娠期のつわりと体重増加量の関係性について 柴百恵／犬飼すみれ

ホテルで開かれた。卒業生のうち56名と当時の各学科の教員32名が出席した。関口修学長が「3年を経て皆さんに集まっていたことに感謝します」とあいさつ。乾杯後、学科ごとのテーブルで学生時代の思い出や近況などを語り合った。アトラクションで幼児教育学科チャイルド・ミュージックコースの現役学生による演奏も披露され、和やかにひと時を過ごした。

石筵開成の杜で 観察や林業体験

環境委員会とナチュラライフスタイル(NLS)部は10月1日、郡山市熱海町で石筵開成の杜探検・自然観察会を開催した。



石筵開成の杜の生態を説明する学生ら

福島県森林自己学習支援事業の補助を受け、自然に触れながら森林の大切さを理解してもらおうと初めて企画した。幼稚園児と小学生、その家族ら30人が参加した。参加者は大学関係者と協力企業との社員とともに、杜の中を散策して植物採集や木のせんだんなど体験した。また、木の幹を使ったコースター作りも楽しんだ。

就職部より

今年の就職は採用活動の早期化、長期化の中で各学科により就職活動の進捗状況も異なる。幼児教育学科のように8月に実習を終え、9月から就職活動が本格化する学科もある。就職内定は昨年度と同様に推移している。今年度も早期内定者と活動の遅い学生の二極化が明確で、現在は未内定者対策を行っている。また、Web上での説明会や面接が7割くらいに増加している。スマートフォンでの情報収集は、手軽だが早期の離職にならないように、基礎的な知識を活用し、将来を

- ▽新型コロナウイルス感染症の影響による食品購入行動・食生活の変化について 長瀬伶奈／永井綾乃
 ▽生活活動記録法と加速度計法で求めた身体活動量の比較 木暮雅子
 ▽消防士への健康増進活動「栄養摂取状況の把握と宿直時のレシピ作成」 三瓶夏夏／村岡千鶴
 平野真唯／村越結美佳
 ▽食事スペースを活用した勤労者の健康増進活動 柳下結衣
 柴田美尋／長谷川実央／館山陽向
 ▽高校生アスリートにおける怪我と食行動との関連 関美南／斉藤恵里／長澤里咲
 ▽鏡石町との地域連携事業「勤労者の健康増進事業の取り組みについて」 唐橋玲奈／小賀坂里紗
 安藤久瑠美／佐藤綾香
 ▽若年女性の鉄不足に対する食事改善とサプリメント摂取によるアプローチ 石塚絵美里

- 【生活科学科 福祉コース】
 ▽高齢者の孤立の現状と居場所づくり 佐久間優衣
 ▽元気な高齢者から学ぶ地域での取り組みへのヒント 渡邊愛菜
 ▽児童虐待が起こる社会的背景と児童相談所が果たす役割 鈴木杏菜
 ▽社会資源の地域格差とそれに伴う在宅高齢者の幸福度―郡山市と玉川村の高齢者の比較― 坂本茅里
 ▽高齢者施設におけるアミラルセラピーの効果検証―特別養護老人ホームの一例を通して― 岩谷萌夏
 ▽足浴と笑いヨガによる相乗効果の検証―足浴との比較― 駒木根佑香
 ▽回想法が高齢者の生きがい感に与える影響―高齢者の回想を促す会話のテーマ― 細川葵未
 ▽東日本大震災・原子力発電所の事故による被災者の現状と課題 佐々木早苗
 ▽福島県の被災状況からの被災者への支援― 福田真歩
 ▽高齢者虐待の現状と支援の在り方



研究成果や中間発表を行う生活科学科の学生

- 【卒業研究中間発表】
 ▽生活科学科 生活総合コース
 ▽生徒主体の学校づくりで寄与する校則の在り方 高徳奈歩
 ▽いじめ対策としての「特別な教科道徳」の可能性―授業実践と道徳教科書の分析を通して― 今泉萌英

見据えた企業研究・企業選択の判断をしてほしい。今は大きな価値転換が起きており、ビジネス環境も複雑化している。ここ数年コロナ禍になつて主體的に情報を取りにいていない学生は行動が遅れる。目的を決め自主的に動き、就職を自分のこととして自律心を持ってやっていく事が必要ではないか。それが早期の就職内定の就職活動に繋がり、インターンシップにも響く。現大学2年生よりインターンシップのあり方が三省合意(文部科学省、厚生労働省、経済産業省)により変わってくる。11月30日には第5回就職ガイダンスで就職内定者が就職活

アドバイス

- 自分なりの軸を持つ
- 自己分析・企業研究は丁寧に!
- ほかの人と比べない
- 不採用通知が来ても気にし過ぎない
- 急いでもパニックするだけ、遅れたら休む

就職内定者の体験発表

- 【建築デザインコース】
 ▽二級建築士製図試験におけるRC造構設計について 久末千夏
 ▽福島県における在宅介護に関する住宅改修について―郡山市といわき市を事例として― 菊地沙希
 ▽福島県における空き家の現状と課題について 柳沼麻未
 ▽再生可能エネルギーとしての太陽光発電の現状と課題に関する考察 郡山市S邸と本学の発電事例から 山口南
 ▽生活騒音の現状と対策に関する研究―戸建て住居の観点から― 橋本優花
 ▽グリーンインフラを活用した地域づくり―福島県の森林利用を目指して― 一條夢叶
 ▽住宅のLDK空間の変遷と住まい方に関する研究 名城英里
 ▽山形県における農村住宅改善事業と県民の住宅像―住宅設計競技にみる指導方針の変遷― 安達瑠渚
 ▽福島県沖地震による文化財建造物の被害とその対策 松本未羽

生活文化博物館が開館

地域文化の創成にも活用へ

郡山開成学園の学術諸分野と連携し、教育・研究資料を収集、保管、展示して活用する「生活文化博物館」が10月27日、正式に開館した。

従来の「日本風俗美術館」を整備して新たな博物館とした。短期大学部学芸員課程の学生の実践的教育施設として、また学生・生徒・園児の教養教育の場として活用するとともに、



生活文化博物館を視察する関口理事長ら

広く一般の方々にも公開し、地域文化の創成に役立てる。古代から近世までの日本の服飾史を知る衣装を着けた等身大人形35体、文楽人形1対をはじめ、創立者の関口富左名学芸員が収集された絵画や陶磁器などを収蔵している。また、本学園の創立記念行事にちなみ特注された染織や漆芸品なども展示している。

今後、常設展に加え特別展、企画展を随時、開催していく。

「発掘ガール展」開催中

生活文化博物館ロビーで1月23日まで「おかえりなさい！発掘ガール展」が開かれている。短期大学部学芸員課程の主催。2001年以来、続けている会津若松市の笹山原遺跡の調査の成果を展示し、今年度の発掘調査の様子なども紹介している。

関口修学園理事長 旭日中綬章の栄誉

政府が11月3日に発表した秋の叙勲で、関口修郡山開成学園理事長・郡山女子大学学長が旭日中綬章の栄に浴されました。

関口理事長は、長年にわたり郡山女子大学、郡山女子大学短期大学部の教員や学校法人郡山開成学園理事として、質の高い教育の環境づくりに尽力された功績が認められ、

関を立ち上げ、その後、大学の評価機関も加わった一般財団法人大学・短期大学基準協会の理事長を今年3月まで務められました。現在も日本私立短期大学協会会長の要職にあります。

時代を超えた名作を鑑賞 第217回芸鑑「日本画展」

第217回芸術鑑賞講座「日本画展」は10月4日から9



日本画の代表的な作家の作品を鑑賞する学生ら

日まで建学記念講堂展示ロビーで開かれた。室町時代の水墨画の大家・雪舟から江戸時代にかけて隆盛を誇った狩野派などの作家、明治から昭和にかけて活躍した著名な作家の作品を展示し、日本画の系譜と奥深さなどを学んでもらおうと企画。第76回もみじ会共催として4年ぶりに一般公開も実施した。会場では雪舟の「花瓶圖」、蕪村・呉春の「俳画」、円山応挙の「花鳥圖」、狩野芳崖の「白鷹圖」をはじめ、近代では横山大観の「霊峰図」、上村松園の「初雪」、鏑木清方の「唐美人」など約50点が披露された。本学所蔵の円山応挙の屏風「雄波雌波図」も特別展示した。期間中、学生や生徒、園児らが時代を超えた名作を鑑賞した。また、郡山市を中心に県内各地や山形県、茨城県などから約130人の一般来場者があった。

日本女性の品格を語る 星野さん招き教養講座

今年度の第2回教養講座は11月2日、建学記念講堂で開かれ、女優でエッセイストの星野知子さんが「武士の娘」にみる日本女性の品格「杉本鉞子（えつこ）の見たアメリカ」と題して講演した。

星野さんは新潟県長岡市出身。明治の初めに旧長岡藩の家老の娘に生まれ、米国在住の男性に嫁いだ後、日本人の生き方や考えを紹介したベストセラー「武士の娘」を執筆した杉本鉞子に共感し、ドキュメンタリードラマの企画・出演や、鉞子に関する書籍を出版している。講演では、鉞子の生い立ちやアメリカでの生活を追いつけた



日本女性の品格について語る星野さん



永年勤続表彰の受賞者と理事

水野さんら12名 永年勤続者表彰

郡山開成学園の令和4年度永年勤続者表彰式は10月25日、学内で行われ、勤続40年、30年、20年、10年の計12名を称えた。該当者と常勤理事が出席。関口修理事長が表彰状と祝金を贈り、労をねぎらった。代表して水野時子さん（短大・教授）が謝辞を述べた。

- 永年勤続者は次の通り。
- ▽40年 菊池節子（大学・教授）
- ▽30年 小澤千晶（幼稚園・教諭）
- ▽20年 善方美千子（大学・助教）
- ▽小松太志（短大・准教授）
- ▽難波宏彰（高校・教諭）

永瀬さんが日本幼少児健康教育学会賞を受賞

短期大学部幼児教育学科准教授の永瀬悦子さんは、第41回日本幼少児健康教育学会で「学会賞（優秀論文賞）」を受賞した。論文「児童を対象とした「命のつながり」の健康教育前後の



賞状と副賞のトロフィーを手にする永瀬さん

学びの変化と体験学習の教育効果の検討」が高く評価された。



募金を贈る学生・生徒の代表

田雅明（高校・教諭）
▽10年 磯部哲夫（短大・教授）
山口猛（短大・准教授）
加藤あゆ美（高校・教諭）
佐久間久美子（幼稚園・教諭）
本多泰治（事務局・就職部）
赤い羽根共同募金の浄財を郡山市社協へ
郡山開成学園は赤い羽根共同募金に賛同し、学生・生徒、教職員から募った139,135円を郡山市社会福祉協議会へ寄付した。
学内で行われた贈呈式では、大学学友会の渡部真緒厚生部長と短大友友会の増子梨央奈厚生部長、附属高校の堀江夢月生徒会長が永久保利弥市社協副会長へ浄財を手渡した。
学園の皆さんの善意は、社会福祉の充実や災害の被災者支援などに役立てられる。

第76回 もみじ会

第76回もみじ会は10月27日(木)28日(金)に盛大に開催された。
 3年前の台風による中止と翌年からのコロナ禍による学内発表のみの開催を経て、4年ぶりに一般公開された。
 「不易と流行～地域社会の復興～」をテーマに、学生・生徒・児童が学びの成果と日頃の活動を地域のために活かす視点で発表や展示を繰り広げた。

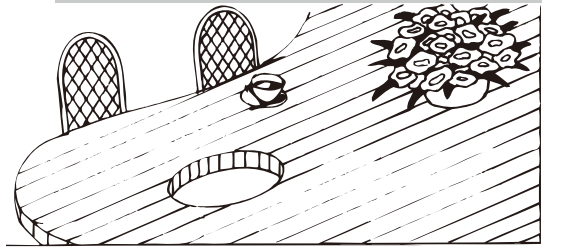


高校大運動会 9/28

大学大運動会 10/5

テイルーム

コミュニケーション・フォーラム



アンサンブルと私

附属幼稚園教諭 小澤 千晶

中学の部活動で毎日、サクソフォンを手にしていました。卒業以降、楽器を仕舞っていましたが、2000年に再挑戦したくなり、教室に通い始めました。先生に誘われて、サクソフォンだけのアンサンブルに参加し、その音色と楽譜から音符を一心不乱に追いかける心地よさに夢中になってしまいました。

そんな中、仲間二人と「トリオ(三重奏)」で活動することにしました。私は中音域を担当。曲によってアルトサクソフォン、テナーサクソフォンを吹くようになりました。自分の中音域(2nd)の役割を發揮できず、高音域(1st)の音程にはもりながら、低音域(3rd)の刻むリズムに乗ることの難しさを感じています。うまくいかないと目立つことのない存在なのか？実力がないから2ndなのか？というネガティブなことも…。

そんな時、有名な音楽番組で、『2nd奏者のすごさを知る』特集がありました。2ndの役割は「3度下をはもる」「常に1stを意識」「1stのタイミングに合わせる」「どう思ったら幸せか考える」「時には1stを

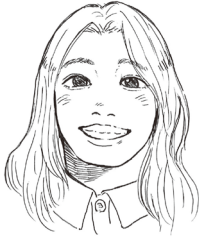
煽る」などなど…。

よくよく考えると、自分の仕事と同じことばかりです。自分のやる言葉で表現されて肩の力が抜けた。一方で、むしろ高い意識的・技術的スキルが必要なのも感じました。はもることに3人が心地よさを感じられるように、コロナ禍を乗り切った際には『2nd奏者』としてアンサンブルを楽しみたいと思います。



愛用のサクソフォン

大町キッズベースまつり ボランティアでの気づき



大学生生活科学科2年 柳沼 胡春

10月23日に開催された「大町キッズベースまつり」のボランティアに参加しました。星総合病院こども事業部が運営する大町キッズベースは、乳幼児の一時預かりや児童クラブ、フリースクールなど、地域の学びと交流の場として様々な利用ができる場所です。

お祭りにはスタンプリヤーやお化け屋敷、ワークショップなど子供たちがワクワクするイベントが盛りだくさんで、開始早々、各ブースに行列ができていました。ハロウィンにちなみ仮装参加大歓迎ということで、子供たちが思い思いの可愛らしい仮装をして、全力で楽しんでいる姿を見るだけで、皆が笑顔になりました。

受付でチラシを配っていると「誰でも参加できますか？」「おばあちゃんでも大丈夫かしら？」など、子供たちの声に引き寄せられ、イベントに興味を持った多くの方々から声を掛けられました。

地域・法人・大町キッズベースの利用者だけでなく、年齢・性別を問わず飛び入り参加でも楽しめるお祭りからは、まさに人と人とを結び、地域を元気にする「地域力」を感じました。

今回のイベントに参加し、保育・医療・福祉・地域の方々、様々な職種が連携することによって実現する子供にとっての良い環境、地域の力で子供たちを守り、育てることの重要性を改めて考えさせられました。今後も積極的にボランティア活動に取り組んでまいります。

家庭寮初期消火訓練に参加して



短大地域創成学科2年 河端 桜

家庭寮では、大学・短大、高校生ともに70人が生活し、一号館では各部屋にIH調理器、二号館ではガス台が各階に設置されているため、日々火災の防止に努めています。10月19日に家庭寮初期消火訓練が行われ、私は火元整備リーダーとして参加しました。

参加した全員が消火器を手にし、火に見立てた段ボールへ消火剤を撒きました。また、放水はしませんでしたが、消火栓の使用方法を聞き、ホースを持つて重さを体感しました。日頃から火災が発生しないよう意識

することは重要ですが、訓練を通して、緊急時に適切な対処ができるよう備えることが不可欠であると痛感しました。

感染症対策として、家庭寮でも様々な行事が制限されています。今回の消火訓練は、春季で行った避難経路確認よりも実践的な内容となり、防災意識の向上と共に、寮生間の連帯が強まったと感じました。また、11月3日に食堂でランチ芋煮会が開催され、学年の垣根なく、多くの参加者が食事を楽しみました。

少しずつ、情勢を鑑みながらではありますが、寮生が集う行事が増えており、嬉しく思います。寮生活の中で培ってきた友情や思い出、生活の基礎は、卒業後の私たちの生活をより豊かに、温かく彩ってくれるものだと感じています。



私の本棚

『52ヘルツのクジラたち』

著者：町田そのこ (中央公論新社)

郡山女子大学短期大学部幼児教育学科 教授 宮内 俊一

この小説は、2021年の本屋大賞受賞作品ですので読まれた方も多いと思います。児童虐待、DV、ヤングケアラー、トランスジェンダー等の社会問題を取り上げながら、誰にも届かな

皆さんは、ICT(情報通信技術)化の波を感じていますか？

私は仕事の関係で「小・中・高の学校」への訪問機会があります。郡山市内のとある小学校を覗くと、元気に授業を受ける児童の姿。「タイムマネージメント、リスクマネージメント、誹謗中傷、著作権、肖像権、フィルターバブル等」の情報モラルに触れながら教科横断的な情報モラル教育を実践する先生の苦労が伺えます。

唐突ですが「自動車」の話をしてしまおう。親しい友人と談笑しながらドライブが可能な便利な道具ですね。ハンドルを握るまでの道のりは長く、「18歳以上で教習所入学、仮免などを経て卒業、本試験合格で運転

生活診断室 シリーズ 70

ICT時代を楽しく歩む

郡山女子大学短期大学部 地域創成学科

准教授 山口 猛

免許証交付」の長丁場。その後も定期的な免許更新が必要で

「便利な道具」でも「ICT」では事情が異なります。具体的な年齢制限や免許は不問。スマホ子守りで赤ん坊でもICTに触れています。「健康被害」「炎上」「いじめ」などのいわばICTの交通事故は世代を問わず発生しています。「情報モラル」自動車運転免許」との解釈は、決して無理ではなさそうです。

ICTの技術進歩は目覚ましく、数十年後にスマホも衰退し新しいICTが登場するでしょう。その時代に求められる常識とは？情報モラルを身につけて、ICT時代で楽しい人生のドライブを。

い孤独と悲しみを描いていきます。52ヘルツのクジラとは、他のクジラが聞き取れない52ヘルツという高い周波数で鳴く、世界で一度だけのクジラです。広大な海にはたくさんの仲間がいるはずなのに声を聞いても何も届かない。誰かに分かってもいい。認めてもらいたい。これは誰にでもある気持ちではないでしょうか？

私は児童養護施設、児童相談所等に勤務し、いろいろな子供たちや家族の方に出会ってきました。「どうしたらいいかわからない」という声が聞こえてきます。子供たちと家族の幸せを願って、小説の最後の文章を紹介して終わります。「今この時、世界中にいる52ヘルツのクジラたちに向かって。どうか、その声が誰かに届きますように。優しく受け止めてもらえますように。わたしのいいのから、全身で受け止めるからどうか歌声を止めないで。わたしは聴こうとするし、見つけてから。わたしが一度も見つけてもらえたら。きくと見つけてみせるから。だから、お願い。52ヘルツの声を聴かせて。」

附属高校が7連覇 春高バレー 代表決定戦



7連覇で春高バレー出場を決めたバレーボール部員

第75回全日本バレーボール高校選手権大会(春高バレー)県代表決定戦を兼ねた第50回F.T.V杯争奪県高校バレーボール選抜優勝大会は11月22、23日、福島市国体記念体育館で開かれ、附属高校が7年連続24度目の優勝を飾った。

三瓶さんが全国高校弓道選抜大会へ出場

附属高校弓道部の三瓶莉奈さん(2年)は県高校新人大会の個人戦で準優勝し、12月23日から熊本県熊本市で開かれる第41回全国高校弓道選抜大会へ出場する。

三瓶さんは11月26日に山形県



東北3位になった三瓶さん

の文京学院大学女子高と対戦する。

- ▽準々決勝 県大会の成績は次の通り。
- ▽準々決勝 郡山女子大附属 2-0 福島東稜
- ▽準決勝 郡山女子大附属 2-1 相馬総合
- ▽決勝 郡山女子大附属 3-1 聖光学院

鶴岡市で開かれた東北選抜大会個人戦でも第3位になった。

附属高校の伊東さんがふくしま駅伝で区間賞

11月20日に開催された「第34回市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会(ふくしま駅伝)」(白河市・福島市、16区間95キロ)に附属高校陸上競技部から、郡山市チームに伊東舞莉彩さんと薄ひなのさん(ともに3年)、浅川町チームで市川心菜さん(2年)が参加した。伊東さんは第11区を走り見事に区間賞を獲得。控えに回った薄さんとともに郡山市の10年ぶりの総合優勝に貢献した。市川さんは第1区を任され27位だった。

大学ビブリオバトルで齋藤さんが全国大会へ

短期大学部地域創成学科の齋藤優佳さん(1年)は「全国大学ビブリオバトル2022」で郡山支部予選、東北地区決選を勝ち抜き、全国大会へ出場する。



気に入った本を紹介する齋藤さん

ビブリオバトルは知的書評合戦とも呼ばれるコミュニケーションゲーム。発表者が1人5分で気に入った本を紹介し、他の発表者と観客が一番読みたくなった本に投票して「チャンプ本」を決定する。

齋藤さんは本学で行われた郡山支部予選で『その本は』(又吉直樹/ヨシタケシンスケ著)を紹介。チャンプ本に選ばれ、仙台市で開かれた東北地区決選でも多くの支持を集めた。齋藤さんは12月25日に千葉

また、伊東さんは来年1月15日に京都市で開かれる第41回全国都道府県対抗女子駅伝競走大会の福島県チームに選ばれた。



郡山市の遠藤日向選手からラスキを受ける伊東さん(第10中継所(福島民報社提供))

県浦安市の明海大学で開かれる「ファイナルステージin浦安」へ出場する。

きのこ料理コンクール5人が優秀賞と奨励賞

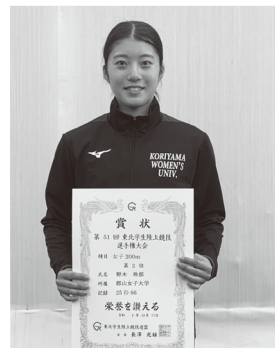
第7回福島県きのこ料理コンクールで短期大学部健康栄養学科1年の関彩音さんと、附属高校食物科3年の佐藤瑠依さんが優秀賞に選ばれ、ほかに大学、短大の3人が入賞した。コンクールは福島県森林・林業・緑化協会の主催。大学、高



きのこ料理を作り入賞した5人

野木さん東北学生陸上3位

大学陸上競技部の野木玲那さん(食物栄養学科3年)は第51回東北学生陸上選手権大会(10月16・17日、仙台市)に出場し、女子2000mで第3位(25秒86)、1000mは第5位(12秒92)に入賞した。



東北学生3位の野木さん

校、一般から194点の応募があり、実際に調理を行う本審査に残った7人のうち5人が本学の学生、生徒で占めた。全国大会へ進む知事賞には及ばなかったものの、それに次ぐ優秀賞に2人、奨励賞に3人が入った。

奨励賞は次の通り。河野歩乃佳(大学食物栄養学科1年)中井萌乃佳、塩田さくら(短大健康栄養学科1年)



減るレシピコンクールの湯田さんが最優秀賞

食材を使い切るアイデアを競う「生ごみ減量!減るレシピコンクール」で附属高校食物科2年、湯田媛香さんが最優秀賞に選ばれた。

コンクールは郡山市と福島民友新聞社の共催。約100点の応募の中から「とろろり餡かけかぶ肉詰め」「かぶの葉と皮のふりかけ」のレシピを考えた湯田さんが栄誉に輝いた。ほかに次の生徒、学生が入賞



減るレシピで最優秀賞の湯田さん

「キリンさん」ダンス 幼児教育学科で振付

短期大学部幼児教育学科は、郡山市と市内にある株式会社ケイエスエムから依頼を受け、感染症予防啓発の産学官連携事業として「キリンさん」のダンスを制作した。



「キリンさん」のダンス動画

シンガー・ドラマーとして活躍する、つのだ☆ひろさんが作詞作曲し、幼児教育学科の学生が振付を考えた。幼児をはじめ市民の方々が楽しんで感染症対策のための手指消毒に取り組めるよう、分かりやすい動きのダンスにした。動画を本学ホームページの公式YouTubeチャンネルで公開している。

広島・関西方面へ修学旅行 附属高校

修学旅行委員長
2年1組 渡部 柚

私たちが2学年1110名は、11月21日から広島・関西方面へ4泊5日の旅行に行つて参りました。
常に新型コロナウイルスの感染対策を意識しながら、この時期が1年で最も美しいと言われる地域を巡りました。そこで日本文化の素晴らしさ、異文化との交流、戦争の悲惨さと平和への願いをテーマに学習しました。



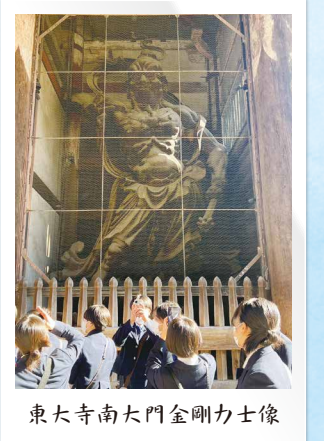
原爆ドーム



慈照寺銀閣



厳島神社



東大寺南大門金剛力士像



清水順正(食物科)

広島では原爆の恐ろしさを目の当たりにし、平和への思いを一層強くしました。厳島神社や姫路城で当時の人々の偉業ともいえる仕事ぶりを感じ、京都では寺社仏閣のみならず、着物の着付け体験や京料理を堪能するなど、一人ひとりがテーマを持って学ぶことができました。大阪では海遊館とUSJを訪れ、世代や文化の違いを超えたエンターテインメントを知つて、これからの国際交流にもつながると考えました。



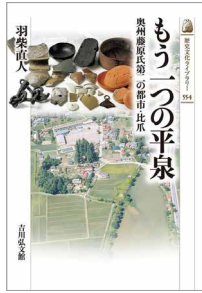
ユニバーサル・スタジオ・ジャパン



第21回

郡山女子大学 大学図書館

新しい本が届きました。
図書館おすすめの本をご紹介します。



もう一つの平泉

羽柴直人 著
吉川弘文館 請求記号
212.2||Ha



戦争は女の顔をしていない

スヴェトラナ・アレクシエーヴィチ 著
三浦みどり 訳
岩波書店 請求記号
986||A



だから私はここにいます

アンナ・ラッセル 著
カミラ・ピニエロ 絵
堀越英美 訳 請求記号
280.4||Ra



夜に星を放つ

窪美澄 著
文藝春秋 請求記号
913.6||Ku11

直木賞受賞作

附属高校バレーボール部が「春高バレー」福島県代表決定戦で7連覇を果たした。野球やサッカーと同様、競技人口の多い種目で高いレベルを維持するのは容易ではない。他校の目標になる重圧も、はね返した成果だろう。夏のインターハイではベスト16に進んだ。さらに成長した姿で全国の強豪と渡り合つてほしい。

訪ねた。関所といつても小高い丘に祀られた白河神社の境内だ。生い茂った木々の間から蝉の声が響き、周囲の喧騒とは違う静寂が印象的だった。
国史跡「白河関」の由緒書きに、いにしえの人々の陸奥(みちのく)に対する意識を感じた。名だたる武将が神社に金品を奉獻し、旅する文人が、その光景に筆を執つた。決して東北を蔑んだりしていない。高校野球に遺つていた呪縛が解かれ、改めて陸奥には可能性が広がっていると胸を張りたい。(哲)

木もれ陽



附属高校美術科3年
眞柄 仁美
「斜陽」
F50号



附属高校美術科3年
福田 来実
「すくう」
F50号

郡山女子大学附属高校美術科3年生の作品です。授業のみならず、朝や放課後の時間を活用して熱心に制作を行っています。第73回県南美術展に出品し、複数点の作品が入選・入賞を果たしました。その中から2作品をご紹介します。

紙上美術展 99